



特集 矢板の桜

矢板 さくら マップ

日本を代表する花「桜」。春になると多くの人が、花見に出かけてその美しさに酔いしれます。その淡いピンクの花びらは、青空に映え、夜の光においても浮き出るような美しさで、訪れる人を魅了します。矢板市内にも多くの桜が植えられ、人々の目を楽しませています。今号では、市内に数多く点在する桜の名所の中から、ほんの一部を紹介します。枝振り、花つき、色、皆さんのお気に入りの桜はどれでしょうか。

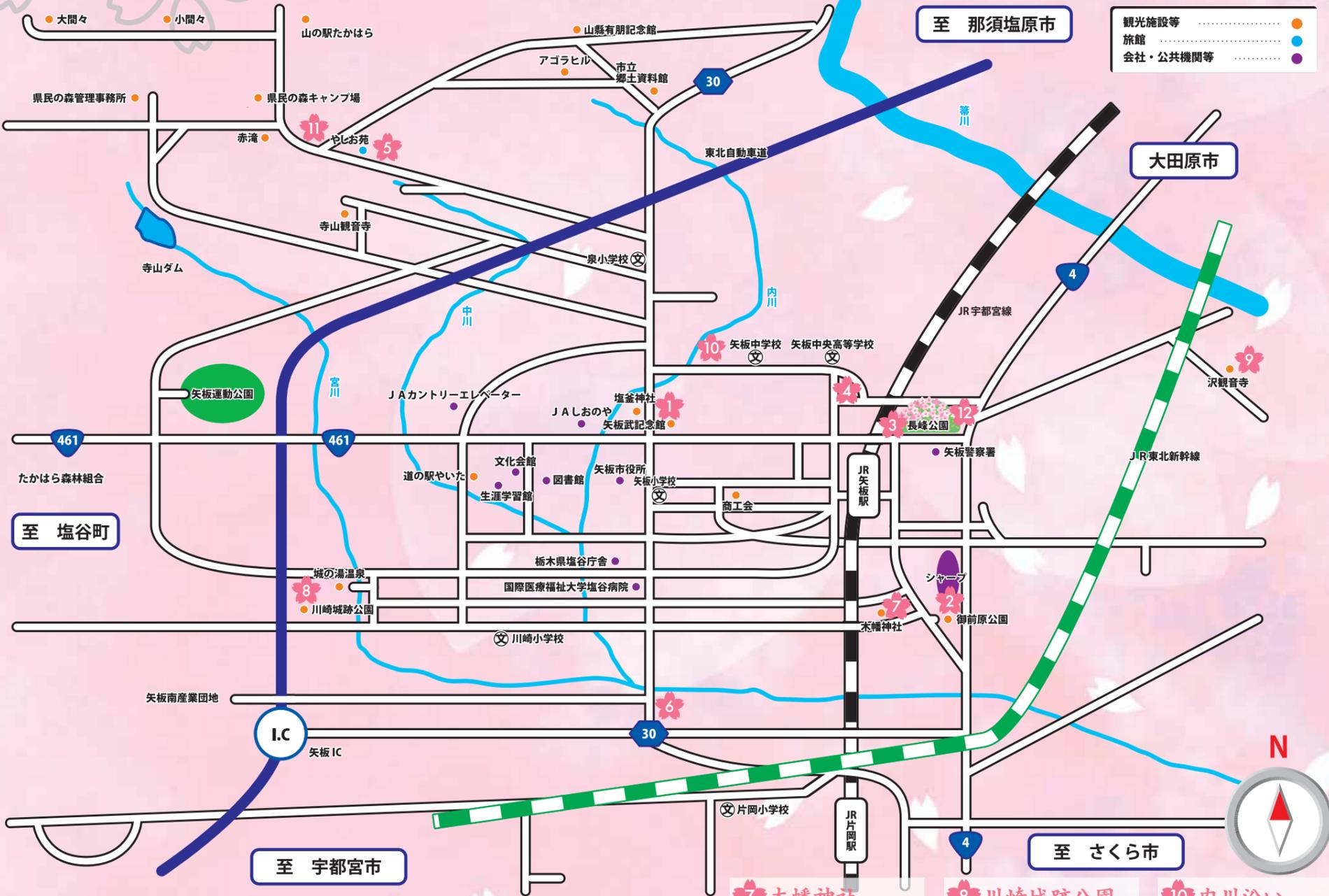
1 矢板武記念館のシダレザクラ

矢板武記念館の庭園内にある樹齢180年のシダレザクラは、市の天然記念物に指定されています。樹形、樹勢、花付きともに見事な銘木です。
開花時期に合わせライトアップを実施します。*ライトアップ期間は21:00まで開館
時期 / 3月下旬～4月初旬ごろ
場所 / 矢板市本町15-3
開館時間 / 10:00～15:00
4月から10月 9:30～16:00
休館日 / 月・火曜日(この日が休日の場合はその翌日)
祝日の翌日(土・日・祝日の場合は開館)
年末・年始(12月27日～1月5日)
入館料 / 一般 100円(60円)
小・中学生 50円(30円)
※()内は20人以上の団体
問い合わせ / 生涯学習課 ☎(43)6218



5 桜地蔵のエドヒガン

推定樹齢290年のエドヒガンサクラの巨木。市の天然記念物に指定されている。木の根元には地藏堂が建っている。
時期 / 4月上旬～中旬ごろ
場所 / 矢板市平野
問い合わせ / 商工林業観光課 ☎(43)6211



6 岡和田踏切のヤマザクラ

推定樹齢150年のヤマザクラは、大きな枝振りが四方に広がり見事な花を咲かせ、列車の乗客の目も楽しませている。
写真: (有)随想社「とちぎの桜を歩く」より引用
時期 / 4月上旬～中旬ごろ
場所 / 矢板市片岡1116-1
問い合わせ / 商工林業観光課 ☎(43)6211



7 木幡神社



9 沢観音寺



8 川崎城跡公園



12 梅が久保の地蔵

10 内川沿い



11 四郎兵衛橋付近



2 御前原公園

御前原公園は、平安末期から鎌倉初期の居城跡です。公園内にある約180本のサクラが咲き競います。
時期 / 4月上旬～中旬ごろ
場所 / 矢板市早川町174-5
問い合わせ / 商工林業観光課 ☎(43)6211



3 長峰公園

日本の都市公園100選に選ばれている公園。サクラからツツジの時期にはライトアップを行います。
時期 / 4月上旬～中旬ごろ
場所 / 矢板市中416-1
問い合わせ / 商工林業観光課 ☎(43)6211



4 妙道寺のシダレザクラ

枝振りが下まで垂れた、シダレザクラのライトアップを行っています。
時期 / 3月下旬～4月上旬ごろ
場所 / 矢板市扇町二丁目9-58
問い合わせ / 妙道寺 ☎(43)0334





川崎城跡公園

「君ならでたれかに見せむわが宿の
軒端にほふ梅の初花」
朝業の返歌
「うれしさもにほひも袖にあまりけり
わがためおれる梅の初花」

花が咲く、矢板市の木と言えば「ナツツバキ」ですが、今回特集した桜以外にも、皆さんに愛されている花。それが「梅」です。
塩谷朝業が鎌倉三代将軍、源実朝とこんな和歌を詠みかわした記録が残っています。
実朝より



これらの和歌が表わすとおり、塩谷朝業の居城跡、川崎城跡公園には、多くの梅が植えられており、訪れた多くの人を楽しませています。そして、そこで採れた梅を使った商品も生まれています。
桜が咲くのは、もう少し後。まずは、梅の香りを楽しんでみるのはいかがでしょうか。

「桜もいいけど、今、梅が咲いてるよ」

清酒十一正宗 「さくら」

やいたブランド認証品

森戸酒造のつくるこの「さくら」は、東京農業大学短期大学部酒類学研究室の中田久保教授が、自然界の桜の花から純粹分離に成功した、新しい香味バランスが特徴の天然優良酒酵母を使用。“まろやかな口あたり”と“キレのよさ”が特徴。

原酒は、度数が少し高めなので、ロックやお湯割りで楽しむこともできる。



「こんな桜もいかがですか」



梅にまつわるやいたの伝説より

「梅が久保の地蔵」

江戸時代のころ、日光北街道には、矢板の宿を東に向かい、今の長峰公園の北側を通っていました。

長峰の坂を登りつめた付近には大きな傘松があり、その下を過ぎてしばらく行くと下り坂になります。山道を下った窪地が「梅が久保」です。そこが沢の方に行く日光北街道と川崎方面に行く道との分岐点でした。

梅が久保は、むかしは人家もない山の中で、それはそれは寂しいところでした。

この梅が久保には、追いはぎが出るというわさがありましたから、夕方になると人っ子一人通らないほど、うす気味悪いところです。

ここにお不動様が祀られていました。このお不動様は、地元の針生をはじめ、沢、土屋、安沢、矢板など隣接した地域の有志の人たちによって寄進されたもので、台石には名前が彫りつけてあります。こんな淋しいところにある不動様でしたから、旅人や村の人たちは、地獄で仏に会ったように安心したのでしょう。いつの間にか赤い腹掛けが着せられ、頭巾をつけられて地蔵さまのようになってしまいました。

また、このお不動様は、鼻の先が欠けておりますので、花掛地蔵（鼻欠地蔵）という美しい名で呼ばれるようになりました。

やがて、この付近を国道が通るようになり、お不動様の土地も買収されてしまいました。そこで止むなく地元の村の人たちは、国道の西側の現在地にお不動様を移転して、丁重にお祀りしました。

お不動様はお地蔵様と呼ばれて、今でも参詣者が多く、往時の日光北街道を訪ねる人も少なくないようです。



矢板武記念館



忠愛 「梅酒」

やいたブランド認証品

富川酒造店の清酒を100%使用した「梅酒」。合成着色料・香料を一切使用していない。日本酒と梅の風味を生かすため、袋絞りでゆっくりと絞る。

地元の川崎城跡公園の粒が大きな青梅をふだんに使用。日本酒と梅の実が溶け合い、梅のエキスがしっかりと抽出されている。



長峰公園

シバザクラ

ハナシノブ科の多年草。北アメリカ東部、南部原産。ハナツメクサともいう。細かく分枝し、地をはうように密生して茂り、半かん木状となる4月中旬～5月中旬にかけて見ごろ。



片岡中学校前